

平成25年度 現場研修会報告『夕張シューパロダム』

1. はじめに

本年度の現場研修会は、完成間近の夕張シューパロダムと150m上流にある大夕張ダム(来年度水没予定)が、並んで見られる貴重な機会であったため、研修先として選定しました。

大夕張ダムの機能を維持したまま新たにダムを構築する転流方式や、堤体コンクリート打設(RCD工法、ケーブルクレーン工法)の施工記録映像を見ることができました。

2. 研修会概要

研修日時:平成25年9月26日(木)

研修先講師

- ①夕張シューパロダムインフォメーションセンター
 - ②夕張シューパロダム建設工事現場
- 講師：斎藤氏
(北海道開発局 夕張シューパロダム 総合建設事業所)

参加者：9名

3. 研修報告

①夕張シューパロダムインフォメーションセンター
館内には、ダムの建設に関わる資料、夕張シューパロダムにより水没するエリアや三弦橋の模型、歴史的資料等が展示され、女性スタッフより丁寧な説明がありました。



写真1 インフォメーションセンターの見学

続いて、館内2F会議室で夕張シューパロダム建設工事の概要を、映像で視聴しました。

ダムの諸元：高111m、堤頂長390m、堤体コンクリート94万m³、湛水面積15.0km²(全国2位)、ダム湖貯水量4億2千万m³(全国4位)

ダムの目的：洪水調整、流水の正常な機能維持、かんがい用水(6市5町)、水道用水(4市3町)、水力発電(最大2万6千KW)



写真2 夕張シューパロダム建設の概要を視聴

②夕張シューパロダム建設工事現場

開発局職員の斎藤講師の案内で、大成JVがメインで施工を行っている、ダムの建設現場を堤頂部→管理棟周辺→ダム上流部の順に見学しました。

ダムの堤頂部から全体を見渡しなが、ダム建設に関わる説明や水没するエリアやについての説明がありました。

旧ダムの機能を維持したまま、すぐ下流に新たなダムを構築する事例は、全国的にも珍しいそうです。

また、参加者からは、ダムコンクリートや施工についての質問が数多く上がりました。



写真3 夕張シューパロダム建設工事現場見学(堤頂部から見学)



写真4 夕張スーパーダム下流側



写真5 夕張スーパーダム上流側
(写真正面に大夕張ダム)

シーパロ湖が一望できる管理棟へ移動し、来年度水没予定の三弦橋を見学しました。

三弦橋は、昭和33年に完成した旧森林鉄道の橋であり、国内唯一の断面が三角形という極めて珍しい構造で、世界的に見ても貴重な構造物です。



写真6 シューパロ湖を横断する三弦橋

続いて、夕張スーパーダム上流側に移動し、見学しました。

普段では見られない堤体の上流側を見ることができ、参加者から多くの質問がありました。

また、転流の形跡や常用洪水吐き部のプレキャスト型枠の使用なども見ることができました。

周辺の工事を終え、仮水路を閉塞したら完成です。



写真7 上流側からの夕張スーパーダム
(写真内の赤線が、完成後の水位です。)

4. 終わりに

本年度の現場研修会は、当日の都合がつかず欠席者が多くなりましたが、天候にも恵まれ、参加者全員が積極的に質問するなど、熱心に研修を受けていました。

開発局の斎藤講師、インフォメーションセンターのスタッフの方々には、スーパーダムの説明や案内を丁寧にしていただき、感謝申し上げます。

また、参加者の皆様ご協力ありがとうございました。



(文責：片山 貴大)